

空っぽの充足感 丹波ニューツーリズム

農協観光の「農体験・田植えツアー」 2011年6月4日
大阪市職員組合のみなさん

昨年の春と秋に引き続き、今年も大阪市職員組合のファミリーが田植えツアーに来られました。参加人数は15名、昨年の約半数でした（急な用事で参加できなくなった人たちが何名も）。



場所は、田舎元気本舗の連携先・柳田農園さん（丹波市春日町東中）の田んぼと畑です。

柳田農園の田んぼの1反は、「丹波カルデン」として恩田令さんが活用しています。丹波カルデン歴4年になる恩田さんは76歳、神戸市垂水から毎週1回は通ってきて、有機無農薬栽培にこだわ

わって畑1反、田んぼ1反をつくっているのです。その驚異的なバイタリティーには誰もが舌をまいてしまいます（恩田さんは元神戸市会議員、「ジュディ&マリー」の元リーダーのお父さん）。



恩田令さん (2010.5.29 田植え)

この丹波では、田植えは5月の連休中にほとんど済ませていますが、恩田さんは苗作り（自宅の屋上ベランダでつくる）の準備もあって今年は6月4日（昨年は5月29日）と決めました。農協観光はこの日に合わせて田植えツアーをプランニングしてくれたわけです。

中型バスが午前10時頃に到着。さっそく田んぼに一列になって、昔

ながらの手植えで苗を植えていきました。お子さんを含めたこの人数で1反の田植えとなると半日はかかってしまうので、1時間でできる範囲まで。

30名以上の参加があった昨年は、早苗をキャッチボールのように投げあって「きゃあ、きゃあ」とやっていたが、あまりはしゃぎすぎたのか（村長もはしゃぎすぎて）、苗がしっかり植えられていなかった。みなさんが帰った後でずいぶん植え直しをしました。今年はその反省もあって、しゅくしゅくと上品に。柳田隆雄さんが運転する田植え機の作業は見学。



田植えのあとは、地元の旬野菜を使った昼食。グリーンピースの豆ご飯、お赤飯、おひたし、サラダ、かきあげの天ぷら、味噌汁、鹿肉のバーベキューなど。みなさん「おいし



い、おいしい」と言って、ご飯を何杯もおかわりしていました。

ビールを持参されていなかったのも、「バーベキューにビールはつきものでしょう。楽しんでください」と村長は促し、一緒に近くのコンビニへ。ビールが届くと男性たちはとくにご満悦。



昼食のあとは柳田農園さんの奥さん（明子さん）の創作紙芝居。

柳田農園の隆雄さんが復活させた丹波大納言黒さや小豆はいまや日本一の小豆として有名ですが、この在来種の小豆種と人工的につくりだす「F1という種」について、子どもにもわかりやすく解説した紙芝居です。

「F1の種でつくられた野菜は、収量をとれるけど、みんな同じ顔になるんですよ。ちょっとコワイですね。お父さんお母さんの子でよかったね」というように。



F1種による生産・収量の安定は、その年だけのもの。F1種でつくられた野菜から種を採って植えても、翌年は同じようにはできない。だから農家は毎年、F1の種を買うことになる。「種を征する者は世界を征する」と言われている。

休憩をはさんで、サツマイモの苗植え、ソラマメの収穫。そしてお土産用の新玉ねぎは、柳田農園にあまりなかったので、道の駅「おばあちゃんの里」のすぐ近くにある丹波カルデンに移動して収穫してもら



いました。ついでに、希望者にはジャガイモ掘り（有料）も。

こうして午後3時過ぎ、道の駅から高速へ。5時間余りの滞在でしたが、みなさんゆっくりした時間を過ごしていただけたと思います。

なにしろ田舎元気本舗が提供するツーリズムの最大の特徴は、「ゆっくり・のんびり・ゆったり」という空っぽの充足感ですから。

この秋、みなさんはまた稲刈りツアーに参加されることでしょう。お待ちしております。

村長 平野